



10月に入り秋の深まりを日々実感します。秋の到来を感じる食べ物としてさつまいもやブドウ、柿などがあります。かつらぎ町は柿の名産地です。柿の種類は1000種類以上あります。完全甘柿（富有柿、次郎柿など）不完全甘柿（禅寺丸、筆柿など）不完全渋柿（甲州百目、利根早生など）完全渋柿（愛宕柿、市田柿など）があります。99%は渋柿だと言われています。今の時期は渋柿を焼酎や炭酸ガスで渋抜きをした柿が食べ頃です。また、渋柿を干して作った干し柿もとてもおいしいです。柿は実だけでなく葉を利用したお茶や柿渋を利用した染め物など柿はあますことなく利用することができます。

詳しく知りたい人は

*『柿づくし』濱崎貞弘（著）農文協 *『干し柿』西村豊（著）あかね書房 をおすすめします。

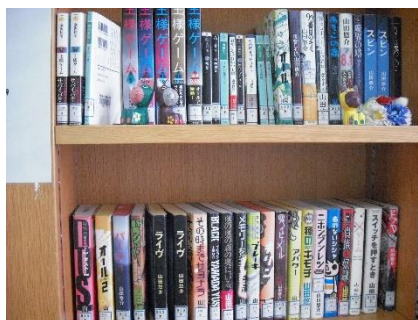
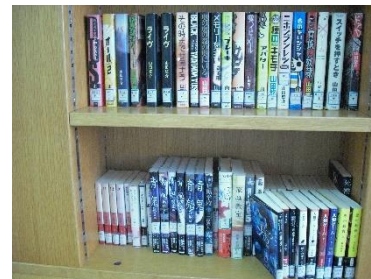
☆☆アイデア募集中！！☆☆

あなたならどうする??

図書館に入って突き当たりにある書架には、調べものに使う本や人気のある本を別置しています。最近、あまり読まれなくなっているの、入れ替えをしたいと思います。

このコーナーにあなたが置いたらいいと思う本をお知らせください。

山田悠介の本などの「ホラー小説」をたくさん置いていました。



『恋空』など初期のケータイ小説を置いていました。

☆☆図書館からのお知らせ☆☆

図書館では読書週間中（10月27日～11月9日）に図書館行事として、「ハロウィンおもちゃかぼちゃでランタン作り」と「夕暮れコンサート」を行っています。



*「ハロウィンおもちゃかぼちゃでランタン作り」

10月25日（月）放課後を予定しています。

参加したい生徒は申し込みに来てください。

（かぼちゃの個数に限りがあるので、早い目に）

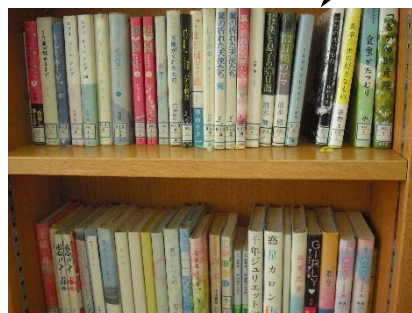
*「夕暮れコンサート」は、開催予定です。

日程や演奏者など詳しいことは、後日お知らせします。



☆☆付録をプレゼントします。☆☆

ほしい生徒は図書館へ来てください。



♪新しい本がいっぱい・・・♪

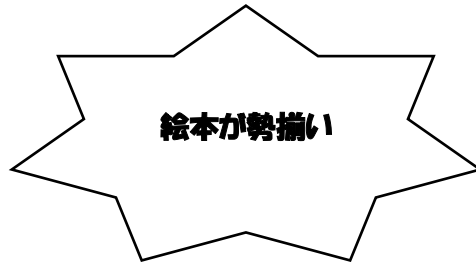
『新装版 オイラーの贈物』
吉田武（著）【410】

『レースの村』
片島麦子（著）【913】

『ぼくが ふえを ふいたら』
阿部海太（作）【913.6】



『かわいいウルフ』
小澤みゆき（編）
【930.278】



『お父さん、まだだいじょうぶ？日記』
加瀬健太郎（著）【740.21】

『父ちゃんの料理教室』
辻仁成（著）

パパがなんで料理をするのかというと、料理をしていると嫌なことを忘れられるからだ。ついでに美味しいものができるからね。完成した時は嬉しいし、君が食べている姿を見ていると、よかったな、と思えて幸福になる。つまり、嫌なことを回避するのにキッチン是最適な場所なんだよ。（本文より・・・）
【596】

『このかみなあに？
トイレットペーパーのはなし』
谷内つねお（作）【585.7】

『墨子よみがえる』
半藤一利（著）【124.3】

『菌の声を聴け』
渡邊格/麻里子（著）【588.32】

『おおかみさんいままんじ？』
中川ひろたか（文）
山村浩二（絵）
【913.6】

『日本語とにらめっこ
～見えないぼくの学習奮闘記～』
モハメド・オマル・アブディン（著）
河路由佳（聞き手・構成）【916】



『家族って』
しまおまほ（著）【914.6】

『そらめくんのベッド』
なかやみわ（さく・え）
【913.6】

『中世ヨーロッパファクトとフィクション』
ウインストン・ブラック（著）
大貫俊夫（監訳）【230.4】

『うしろむき夕食店』
冬森灯（著）【913.6】

『あなたと出逢えてよかったあ』
やのともこ（著）【726.6】

『地球を壊す暮らし方』
ウルリッヒ・プラント/マークス・ヴィッセン（著）
中村健吾/斎藤幸平（監訳）【361.7】

『作家の手料理』
野村麻里（編）【914.68】

『どうしてもあなたに届けたくて』
やのともこ（著）【726.6】

『作家と猫』
平凡社（編）【914.68】

『考えの整頓』
ベンチの足 佐藤雅彦（著）【914.6】

『ムズカシそうな
SDG s のことがひと目でや
さしくわかる本』
本田亮（著）【519】

『たべるのだあれ？』
すぎはらけいたろう（作）【913.6】



